

Vol.7 春号「環境経営」特集について

・企業の環境に対する取り組みは、各企業で温度差はあるにしろ、年々重要度を増して来ている。しかし現状では各企業の活動と企業を取り巻く社会での活動が必ずしも連携しているとは言えず今後の課題であることが理解できた。

花王株式会社(東京都):石田様

・環境経営の根幹に地球温暖化防止があることの認識が薄いように感じました。気候変動枠組条約と企業の役目の自覚と実践に関して、決意・理念化、目標化、ルール化の作業が連係して見られず、実践方法だけが表面に出ていると感じるからです。CSRの問題でしょうか。

シンクタンク:神奈川県からの読者から

・CSR対策が経営戦略上不可欠であり、品質、環境、安全等が、あくまでも切り口であることが、理解されつつあるようです。統合マネジメントシステムとして環境経営を運用するには多くの課題があるようです。

カンボウプラス株式会社(福井県):福島様

・有害物質を使わないで欲しいという要求がきた場合ですが、製品に関係するのだから、品質ISOで運営管理すべきと、環境ISOの担当者に言われ、疑問に思っていました。特集の中で環境ISOでは製品に関係する環境側面を把握し、実施計画の中に落とし込む必要があると明確に説明されており、読んでいて頭の中がすっきりしました。

いずれにしても、品質ISOおよび環境ISOの認証取得している現在、共通する部分を理解するためにも、環境ISOの正しい知識を品質に携る者も習得しておく必要があると感じました。

電気機器:福島県の読者から

・各社の事例は具体的で参考になることが多く、興味深く読みました。最近ではRoHSなど環境に関わる事柄が1社の中では完結せず取引先などいろいろな企業が関わっていることを実感していますが、今後もいろいろな会社の取り組み事例を取り上げていただきたい。

サンドピクチャーヨー株式会社(宮城県):平野様

* 内は、投稿者の企業または業種、所在地、お名前

Vol.8に掲載されている記事に関するご意見・ご感想をお寄せください。お寄せいただいたご意見・ご感想は編集の参考とさせていただきますと同時に、読者のご意見としてこのコーナーで紹介させていただくことがございます。ご投稿には所属組織名、お名前、ご連絡先を添えてお送りください。(ご希望があれば匿名で掲載いたします。)

▶宛先は E-mail: iso-network@jqqa.jp

郵便(郵便番号だけで届きます): 〒100-8308 JQA ISO NETWORK 編集担当 宛

FAX:03-6212-9511

▶この件に関するお問い合わせ

TEL: 03-6212-9654(企画センター ISO NETWORK 編集担当)

前号に同封させていただいたISO NETWORKの内容についてのアンケートにご協力いただきましてありがとうございました。ご回答いただいた皆さまのご意見、ご感想はすべて目を通させていただきました。今後の編集の参考にさせていただきます。